

ザ・チャレンジ

(大学受験編)

2019年度入試もいよいよ佳境を迎えています。受験生の奮闘を間近で見て、来年や再来年は自分たちの番であると感じている高校生も多いのではないのでしょうか。

現在の高校1年生と2年生では、入試制度が異なってきます。高校1年生が受験生となる時には「大学入試センター試験」が廃止され、「大学入学共通テスト」が導入されます。私立大学からも21年度入試の概要が発表されてきました。今回は「21年度からの新入試」をテーマとします。

「新入試」が施行される背景については、日本を取り巻く社会環境の変化が挙げられます。現在では人の価値観や社会のニーズが多様化し、活躍の場もグローバルに開かれていく時代となり、他者と協働しながら主体的に目の前の課題を突破していく能力が求められます。新入試ではそれらの能力を測るため、学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・

多様性・協働性」が総合的に評価されます。その中で、「新入試」の柱は大きく二つあると言えます。

一つ目は、英語の4技能(「聞く」「読む」「話す」「書く」)が評価されるコミュニケーションが重視された入試制度へと変化していく点です。これに伴い私立大学も含め、英語4技能の能力を測る「外部試験」を導入した入試が多くなります。大学受験に使用できる英語の外部試験は受験時期が限られたものもありますが、受験時期のみに受験をして成果がでるとは限りません。高校入学後、早い段階から積極的に英語の外部試験にチャレンジしていくことが重要になります。

二つ目は、記述式問題等を通して、知識の有無だけでなく表現力等を問う入試が増加する点です。「大学入学共通テスト」において国語、数学で記述式問題が導入されることはご存じの方も多いかもかもしれません

Q. 大学新入試の柱は？

が、私立大学の入試の中でも教科を横断した内容の出題や記述問題を増やす大学があります。単に「知識」を詰め込むだけの学習のみならず、知識を確実に定着させた上でそれを活用する方法も身につけなければなりません。例えば単純に事象等語彙の暗記をするだけでなくその背景を理解することや、数学の公式であれば公式の成り立ちを理解するなど「なぜそうなるのか」という視点が非常に重要になります。

新入試に向けての情報は今後ますます詳細に発表されてきます。情報をしっかりと確認し役立てていきましょう。

(CG高等館・東進衛星予備校)

※幼児教育から各段階の進学対応まで、多様な「学び」の情報を紹介。次回は小学校編。



大学進学情報紙「TOSHIN TIMES」
CG高等館・東進衛星予備校各校舎で無料配布中

A. 英語4技能重視と記述式問題の導入